

宮城学院女子大学

Partir

[パルティール]

VOL. 30

2020.10

あなたのこれからに贈りたい
Live Letter from MG



01 誌上セミ

実践的な授業を通じて、
本質的な課題解決力を身につける

05 学問へのいざない

「健康な暮らしと食生活や栄養への介入との関係」を学ぶ
「食とアニメコンテンツによる地域振興」を学ぶ

07 特集

2020年度入学式
2020大学祭開催

09 ACTION

躍動するMG生

11 My way MG way

卒業生の仕事場訪問

13 サークル紹介

14 CAMPUS NEWS

15 MG Archives / 私のENJOY HOME

「Partir (パルティール)」はフランス語で「出発する」
新しい時代に飛び立とうとする女性たちを支え、励ますために、
宮城学院女子大学から発信するコミュニケーション情報誌です。

実践的な授業を通じて、 本質的な課題解決力を身につける マーケティングの観点から、地域の課題解決のための商品開発に挑む

地域社会の課題解決のため 各班に分かれて商品開発

石原 このゼミでは、マーケティング論について研究していますが、理論の学習にとどまらず、経営学における様々な理論を適



石原 慎士 教授

用しながら実証事業を推進しています。東日本大震災後は、宮城県石巻市の企業、まちづくり研究会、商店街組織などと連携し、地域性を生かした商品を開発してきました。商品開発に際しては、マーケットインの発想に基づく開発手法を重視し、試験販売や消費者調査を実施しています。今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、例年よりも制限の多い実習ですが、学生たちは柔軟に対応し、新しい知見を広げています。各班に分かれて商品開発を行っているのも、それぞれの班のテーマと活動内容について紹介してください。

白岩 旧八戸藩の地域に伝わる「堅豆腐」

に着目し、商品開発を行っています。「堅豆腐」プロジェクトは、さらに惣菜班とスイーツ班に分かれていて、私は惣菜班のリーダーです。

伊藤 私は「堅豆腐」のスイーツ班リーダーを務めています。今年度から初めて取り組むテーマなので、大変なことも多いのですが、同時にやりがいを感じています。みんなで力を合わせて、価値ある商品を作れるように尽力しています。

長谷川 私は石巻地域で昭和30年頃から作られているお菓子「ポストンパイ」班のリーダーです。「萬楽堂」という菓子店にご協力いただき、ポストンパイをもっと

現代ビジネス学部 現代ビジネス学科

石原 慎士 教授

[現代ビジネス学部2・3年のみなさん]

白岩 美歩さん (3年)
伊藤 穂乃香さん (3年)
長谷川 玲さん (3年)
吉岡 智実さん (3年)
菅原 純菜さん (3年)
齋藤 亜由美さん (3年)
佐藤 瑛怜さん (3年)
永田 杏里さん (2年)
箱崎 香菜子さん (2年)



多くの人に知ってもらうための商品開発に取り組んでいます。

吉岡 私と佐藤さんは、金華さばを使った「さばサンド」班も兼任しています。こちらも「萬楽堂」さんにご協力いただきました。特注のソフトバゲットに、味付けした金華さばと道の駅の直売所で販売されている地元産野菜を挟んだメニューです。

菅原 その他に、石巻市に伝わる調理法を適用した「どぶ漬け唐揚げ」を開発している班もあります。私と永田さんが所属しています。

石原 学生たちはそれぞれ兼任しながら班に分かれ、12月の正式販売に向けて準備を進めています。このゼミでは実践的な学びを重視しているので、実際に民間企業・経済団体・観光事業者といった多様な関係者と連携しながら、地域の問題解決を図るための商品開発に取り組めます。学生たちにとって、ただ商品アイデアを考えて終わりではなく、本当にこの商品

が地域の問題解決になるのかを深く考え、しっかりと実証することや企業やお店と協議を重ねていく過程も大きな学びになっていると思います。

学生が主体的に動く 石原ゼミならではの学び

石原 ゼミ生は問題や課題の解決に向けて、主体的かつ実践的に取り組んでいます。特に3年生は意見交換がとて活発で、2年生もそんな3年生の姿を見て学んでいるようです。それでは、皆さんがこのゼミを選んだ理由を教えてください。

齋藤 商品開発に携わることは、私にとって高校時代からの変わらない夢です。実践的な力に身につく石原ゼミは、そんな夢への第一歩になるに違いないと確信して選びました。

佐藤 1年生の時に受講した石原先生のマーケティングの授業がきっかけです。



長谷川 玲さん



伊藤 穂乃香さん



白岩 美歩さん

ターゲットを絞り、どういう商品が売れるかなどを考えることに面白さを感じました。

白岩 私は、試作・企業提案・試験販売などを行い、顧客ニーズに合っているかどうかをしっかりと分析してから販売するという、本格的な取り組みができる点や、実際に企業とやりとりするなど実践型の学びが得られるという点に、他大学や他のゼミにはない魅力を感じました。

長谷川 私は石原先生が石巻専修大学に勤務されていた時に手掛けた「サバだしラーメン」のことを知っていて、ゼミを選ぶ際にぜひこの先生のもとで学びたいと思いました。また、石原先生は東日本大震災で被災した地域産業を復興させたいという想いが強いことを知り、私も親戚を津波で亡くしているので、同じ気持ちで「何かの役に立てれば」と思ったことがきっかけです。

吉岡 もともと衣服が好きで、流行やトレ



箱崎 香菜子さん



永田 杏里さん



佐藤 瑛怜さん

伊藤 石原ゼミは色々な年代・性別の方と関わる機会が多いです。私はもともと人と関わるのが苦手でしたが、消費者調査で「おいしいね」「期待してるよ」という声をいただくことがこんなに嬉しいんだ！と感動しました。今取り組んでいる産学・異業種連携体制は、あまりないビジ

吉岡 石原ゼミは様々な考え方や人との関わり方について学べるところが面白いと思います。自分と相手との違いを知り、ともに行動することは論理的な思考力を身につける機会になります。また、「さばサンド」班のリーダーを務めてみて、「自分で全部やろうとせず、適材適所でメンバーに任せる」ことの大切さを理解することができました。

佐藤 販売会のアンケートで、若い人はほとんど「ポストンパイ」の存在を知らないということが分かりました。私たちが開発したアレンジ商品で、全ての世代の人に知ってもらえたらと思っています。

菅原 私は一言で言うとうと、石原先生の考え方に惚れ込んだという感じです（笑）。地域社会の課題を解決するための手段としてマーケティングを使っていることや、提案だけにとどまらず、商品開発を通じて地域の課題をきちんと解決できたか、ということまで検証していることが最

大の魅力です。
永田 1年生の時の授業で、石原ゼミに興味を持ちました。商品開発の過程において、地域の歴史や文化などを調べるところから始めるという点も、すごく実践的で面白いです。
箱崎 子どもの頃から商品開発に憧れがあり、「楽しそうなゼミだな」と思ったことがきっかけです。地域について調べる作業も楽しいので、先輩方を見て学びながら自分も成長できたらと思います。

新たな発見や目標、活動を通じて気づいたこと

石原 3年生はゼミ活動を通じて、さまざまな課題に直面し、これまでにない貴重な経験を得ていると思います。自分ではどんな学びがあったと感じていますか。
白岩 「堅豆腐」の取り組みは、商品を開発することが最終目標ではなく、地元の豆



齋藤 亜由美さん



菅原 純菜さん



吉岡 智実さん

ネス手法だと思うので、最後までしっかりとやり遂げたいです。
菅原 私は今、ゼミ長を務めています。組織の運営にもマーケティングの考え方は活用できます。これまでリーダーの経験がほとんどなかったのですが、メンバーが円滑に活動を進められるにはどうすればいいかということを考え、対策を考えることでまた違った学びが得られています。
石原 今年は新型コロナウイルスの影響で、前期はオンラインでのゼミ活動が中心でした。その中で学生たちは、上級生がしっかりとリードして密なコミュニケーションをとり、組織の運営はもちろん、プロジェクトを確実に進めることができました。オンラインでのやりとりが増えたことで、結果的に先輩と後輩のつながりが強くなったのではと感じます。ぜひ最後まで妥協せず、地域の課題解決に対して全力で取り組んでほしいと思っています。

腐店と消費者をつなぐことを目指しています。そのために状況を客観的に捉えることが求められるのですが、商品を知らない人に商品の魅力を伝えることがとても難しいのです。また、人の意見を聞き、客観的に考えることも難しいと思いました。
長谷川 私の班は、田代島の猫を観光資源と捉え、猫の形をした「ポストンパイ」を開発しました。石巻ならではの観光資源を使つての商品開発は今年が初めて。メンバー一人ひとりが力を合わせたからこそ実現したことなので、とても実のある取り組みになったと思っています。
齋藤 私は接客の経験がなかったため「ポストンパイ」の販売会で自分から声を出すことがなかなかできませんでした。ですが、自分なりに言葉のかけ方やPRのポイントを考えて行動することによって、徐々にお客さまとコミュニケーションをとれるようになり、商品の理解も深まりました。



※撮影時のみマスクを外しました。



「食とアニメコンテンツによる地域振興」を学ぶ

現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 大谷 尚之 教授

大学院時代の専攻は農業経済学でしたが、現在は、ご当地グルメやアニメコンテンツを活用した地域振興を研究テーマに据えています。宇都宮大学に勤めていた頃から10年以上にわたり、餃子によるまちおこしについて調べています。必ずしも稀少なものでなくても、有力な地域資源になりうるということに気づいて視野が広がりました。

それと並行して、アニメ作品の舞台をファンが探訪する「アニメ聖地巡礼」が地域に与える影響について調べています。すぐれたアニメ作品が制作されると、作品のファンは舞台（モデル）となった地域へ足を運びます。現地を訪れたファンは、アニメに関連するイベントに参加したり、

食とアニメに着目して「まちおこし」を考える

地域限定グッズを購入したり、地元住民と交流したりする中で、地域に影響を及ぼします。コンテンツ制作者、作品のファン、地域住民の三者が「三方よし」の関係を築くためのポイントについて研究しています。

今まで意識できなかったことに気づく学びを

前期はオンライン授業でしたが、後期に入ってゼミなどの一部の授業は対面で行えるようになりました。授業では、なるべく具体例を挙げながら事例の「見方」について説明するようにしています。「見方」を学ぶことで、以前は見過ぎていたことに気づくことができたり、より深く考えることができるようになったりします。たとえば、アニメにしても、「三方よし」の図式を意識すると、単に「アニメが好き」で終わるのでは



Profile

宮城県仙台市出身。東北大学大学院農学研究科博士後期課程退学。博士（経営学）。宇都宮大学農学部助教、愛媛大学法文学部准教授、同大学社会共創学部准教授を経て、2020年4月から現職。○信条は「捨てる神あれば拾う神あり」

私のおすすめ本

アニメ・マンガで地域振興
著：山村高淑

徹底した現地取材に基づいてアニメツーリズムを地域振興につなげる秘訣について考察した一冊。先駆的な業績であり、このテーマを学ぶうえでの必読文献だと思います（現在はオンデマンド版のみ発売中）。



これが学びのツボ！

すぐれたアニメ作品が制作され、マナーのよいファンが舞台地を探訪し、地域住民と交流を深める。これが、アニメツーリズムが成功するためのポイントです。なお、「聖地巡礼」する際には、マナーを守ってください。



「健康な暮らしと食生活や栄養への介入との関係」を学ぶ

生活科学部 食品栄養学科 緑川 早苗 教授

地域医療不足や原発事故など自身の経験を学問に生かす

私は会津の過疎地に生まれ、地域医療の不足を感じながら育ちました。この経験が、医師を志した理由の一つです。専門は内分泌代謝学、そしてスクリーニングコミュニケーション学です。後者は東日本大震災で福島原発事故を経験し、その後子どもたちや若い人たちの甲状腺がんを調査するスクリーニングに携わったことから、その心理社会的影響や意思決定の課題につ



いて解決法を研究しています。

食品栄養学科は、管理栄養士という国家資格の取得を目指す学科です。私はその中で、臨床医学という学問を教えています。前期は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全てオンライン授業でした。学生たちは大変だったと思います。が、課題に対してとても真面目に取り組んでくれました。ようやく対面授業が再開したので、これからさらに学びを深めてほしいと思っています。

管理栄養士とは、相手の人生に介入する仕事

講義で心がけているのは、実際の臨床現場でどうかということ。また、社会の中で問題となっていることと結びつけたり、学生たちの身近に感じられる事例を話した

りすることで、少しでも理解を深めてもらえたらと考えています。

管理栄養士は医療と同じで、様々な対象者に「介入」をすることが仕事です。例えば栄養指導において、医師の処方のもとで食生活のアドバイスをする場合、どれくらいその人の生活に影響を及ぼすかを理解しなければなりません。私たちの介入は、その人にとって利益だけを生むのではなく、必ず不利益も生まれるということです。栄養のアドバイスを受け入れるかどうか、意思決定の主体は相手にあります。だからこそ、どんな時も相手の立場に立ち、価値観や人生を尊重してほしいですね。そのためには、栄養学や臨床医学だけを学ぶのではなく、幅広く物事を知り、色んな経験を積んでほしいと思っています。

Profile

福島県奥会津出身。医学博士。福島県立医科大学医学部卒業。同医科大学の糖尿病内分泌代謝学講座に入局。2012年1月から放射線健康管理学講座に異動し、2020年3月まで勤務。2020年4月から現職。○信条「我慢はするけど諦めない」

私のおすすめ本

橋のない川
著者：住井すゑ

被差別部落を舞台に、故なき差別に苦しみながら、それでも力強く生きようとする人々の闘いを描く全6巻の長編小説。人が生きるとはどういうことか、なぜ悲しみや苦しみが生まれるか。多くの学びが得られるので、若い世代にこそ読んでほしい一冊。



これが学びのツボ！

臨床医学は専門用語なども多く、少し難しい分野かと思います。ですが、ミヤガクの皆さんの素直で謙虚な姿勢は学問を追求する上で大きな武器となりますので、しっかりと学んでほしいです。

学問への
いざない

2020 年度入学式

当初 4 月 3 日に予定していた 2020 年度入学式を、9 月 9 日～11 日の 3 日間、学科専攻ごとの分散形式で挙行了しました。新入学生 844 名(内、編入学生 9 名)、大学生活の新たなスタートです。



前期授業のほとんどはリモートで行われ、キャンパスに足を踏み入れることなく大学生活を送っていた新入学生たち。

会場入口では検温・手指消毒を徹底し、会場内も前後左右の間隔を空けた座席配置としました。なお、入場は新入学生のみとしたため、保護者の方々へ向けて会場の模様をライブ配信いたしました。

コロナ禍という状況を鑑み、当日は任意参加という形を取りましたが、新入学生 835 名、編入学生 9 名のうち、ほとんどの学生が参加しました。また、多くのメディア取材も訪れ、インタビューに応じる新入学生の姿も見受けられました。



新入学生の皆さん、
ご入学おめでとうございます！

学内

10/10± 2020 大学祭開催

学内開催で行われた今回の大学祭。1 年生にとっては課外活動やゼミについてよく知る機会になったようです。学生たちは笑顔と元気いっぱいに活動の成果を披露していました。

※ステージ中のみマスクを外しました。



コバルト短編小説新人賞 2019年度年間最優秀賞を受賞

集英社が主催し、作家・三浦しをんさんが選考を務められている「コバルト短編小説新人賞」の2019年度年間最優秀賞に、日本文学科3年・吉田詩織さんが選ばれました。

年間最優秀賞は、2019年度に

実施された第200回
第205回の入選作
の中から選考されます。

吉田さんは作品『卒業』
で第202回コバルト
短編小説新人賞を受賞
しており、年間最優秀
賞受賞にあたり記念作



イラスト：ハルヒマチ

『どうせ忘れる』をWebマガジンコバルト内で発表しました。
吉田さんは「受賞と記念作の掲載、本当に嬉しかったです。今後も頑張りたいと思います。」と話しています。今後のご活躍を応援しています。

「未来の作曲家コンサート」に学生2名が選出

未来の作曲家コンサートin東北2020(旧ヤングコンポーザーコンサートin東北)は、22歳以下の東北出身・在住者を対象とした作曲作品の公募形式のコンサートです。本学音楽科教授・小山和彦先生と、非常勤講師の木島由美子先生が選考委員を務めています。

毎年、楽器を指定して作品を募集しており、今回はホルンとピアノのための作品です。岩手・宮城・山形・福島からの応募のうち14名が選考を通過し、音楽科1年・平尾友さんと、同3年・小海途玖実さんの作品も選ばれました。

平尾さんは「ホルンとピアノ両方の良さを生かせる作品にしました。私はホルンの経験がないため、音域や演奏しやすさを考えて作ることが難しかったです。選出決定の封書を受け取ったときは驚いてしまい、本当に自分

宛であるのかよく確かめました。」と振り返り、小海途さんは「作成中は自分の頭の中でしか鳴っていないかったものが、コンサートでは演奏者の方々のお力で広い音楽になり、とても嬉しかったです。ホルンの音色が持つ、堂々とした力強さ、柔らかさ、温かさといった魅力が伝わるよう思いを込めました。」と話しました。



(左から) 小海途 玖実さん、平尾 友さん

躍動するMG生!

学内はもちろん、さまざまな舞台で活躍するMGUの学生たち。

ここでは、そんな彼女たちの様子を紹介します。

Action

「古今東北」の商品を使ったレシピを考案 冊子でも紹介

2017年より(株)東北協同事業開発と展開している「古今東北」ブランドの商品開発。後期授業より新商品の開発がスタートしています。

前期期間中、現代ビジネス学科・宮原育子ゼミと渡部美紀子ゼミでは、「古今東北」商品のコンセプトやラインナップなどの商品知識を得ることや、広い観点からプロモーション活動を考えることを目的に、古今東北商品を一点以上使った「MGおうちでCOCONレシピコンテスト」を実施しました。レシピは学生自身のオリジナルです。

レシピ審査会には、(株)東北協同事業開発より丹野潤一取締役開発・営業部長にお越し頂きました。実際に自



彩野菜といぶりがっこの
バリバリピザ



鯖らしい(すばらしい)
万能トマト煮



(左から) 熊谷 菜南さん、宇佐見 綾野さん、丹野 潤一様、
宮原 育子先生、渡部 美紀子先生

宅で試作した社員の方
もいらっしやったとの
ことで、学生たちのレ
シピに皆さん興味津々
だったようです。

審査の結果、最優秀
賞は現代ビジネス学科
2年・宇佐美綾野さん
の「彩野菜といぶりが
っこのバリバリピ
ザ」、優秀賞は同3年・
熊谷菜南さんの「鯖ら

しい(すばらしい)万能トマト煮」が選ばれ、レシピは
コープ広報誌『SCOOP! 9月号』や『大人の情
報誌りらく8月号』に掲載されました。

総評として丹野取締役より「想像以上の出来栄に
大変驚きましたし、感心いたしました。複数の調理例を
イメージできれば購買動機も増えるでしょう。『古今東
北』商品を普及する大きな武器にもなるということに
なります」とのお言葉を頂きました。

——イオンリテール株式会社に就職を志望した理由は？

就職活動を始めた当初は、どんな仕事に就きたいか明確なイメージを持てずにいました。ですが、大学の企業説明会で、イオンは日本で最初にランドセルのカラーバリエーションを増やした会社だという紹介がありました。現在は色とりどりのランドセルがあることはごく普通になっていますが、このように「新しい当たり前をつくる仕事」に魅力を感じたことが志望のきっかけです。

——現在の仕事内容を教えてください。

売り場づくりと接客、そして今年からマネージャー業務が加わりました。新人の育成、パートさんの勤務時間の管理、予算策定、各月の売り場の計画書など業務はたくさんあります。まだマネージャー1年目なので、上司にサポートしていただきながら勉強中です。

イオン古川店
菊地 愛美さん

人と関わる仕事を通じて
「新しい当たり前づくり」に
挑戦していきたい



売り場では常に笑顔で心がけている菊地さん。マネージャー業務をこなしながら、なるべく売り場に出て接客をするようにしている。



「私は周囲の人に恵まれていると思います」と話す菊地さん。職場は明るく活気があり、相談もしやすい雰囲気だという。



タグを切るハサミや裾上げのクリップ、お直しで使うメジャーや新人時代のメモ帳など仕事に欠かせない道具たち。

——就職して、大変だと思ったことはありませんか？

初めての一人暮らしは慣れるまで大変でした。私は朝が弱いので、それまでも家族に起こしてもらっていましたが（笑）。ですが、同じく一人暮らしが初めての同期たちと励まし合いながら過ごして、今ではすっかり早起きにも慣れました。

——仕事のやりがいはどこなところですか？

やはり売り場づくりは楽しいですね。例えば今夏、Tシャツの販売力を入れるために、Tシャツをずらりと並べてディスプレイしたり、遠くにいるお客様にもしつかりPRできるように天井からTシャツを吊るしたりと工夫しました。その結果、全国の売り場の中でも良い成績を残すことができてとても嬉しかったです。スタッフみんなで意見を出し合いながら、日々協力して売り場づくりに励んでいます。

——学生時代の学びや経験で生かされていることはありますか？

接客時に意識していることは、話しかけやすい雰囲気を作ることです。ここに、心理行動科学科で学んだ「傾聴」や、接客のアルバイトで培ったコミュニケーション力が役立っていると思います。また、大学祭の実行委員を務めた時に、様々な立場の方と関わったり、意見をまとめた経験もあり、しつかり生きています。

——これからの目標は？

入社時から3年間古川店に勤務していますが、他のお店も経験したいと考えています。さらに、志望のきっかけにもなった「新しい当たり前をつくる仕事」にも興味があり、ゆくゆくは商品開発にも携わってみたいのです。そのために、マネージャーとして経験を積むことはもちろん、化学繊維の勉強など色々なことにチャレンジしたいと思っています。

Profile 菊地 愛美さん

宮城県名取市出身。聖ドミニコ学院高等学校卒業。2018年3月宮城学院女子大学学芸学部心理行動科学科卒業。同年4月、イオンリテール株式会社入社、レディース部門に配属。2年目はインナーカジュアルリーダーを任せられ、入社3年目の今年からレディース部門のマネージャーを務める。

※撮影時のみマスクを外しました。

**感染防止対策を徹底した
前期対面授業**

後期に入り、対面授業が一部再開されましたが、前期期間中は教職免許や国家資格を目指す学生に限り入構が認められていました。検温や手指消毒の徹底はもちろん、教室内もソーシャルディスタンスを保ったレイアウトに変更しました。

幼稚園教諭を目指す学生が履修する「幼児教育実習指導Ⅱ」は、広さに余裕のある体育実習室でグループごとの発表に対し活発な意見交換がされていました。

福祉施設などでの実習を控えた教育学科の「ソーシャルワーク実習指導」では3グループに分かれて注意事項などが伝えられました。例年、同じ期間に複数の学校を受け入れる施設も、今回は学校ごとに日程をずらし、密集を防いでいるとのこと



幼児教育実習指導Ⅱ



博物館実習Ⅰ(d)

です。

生活文化デザイン学科・日本文学科・人間文化学科の学芸員を目指す学生に開講している博物館実習Ⅰ(d)は、縄文土器の拓本実習を行いました。前回までのオンライン授業で拓本の方法を説明し、対面授業当日は作業のみにとどめるという形を取っていました。

今年度の資格試験は、授業同様、感染防止対策を徹底した実施形態となるが予想されます。思い描いた将来となるよう、教職員一丸となってサポートしていきます。

**新型コロナウイルス関連の
独自奨学金を新設**

新型コロナウイルス感染症の影響で家計が急変した学生を対象とした「宮城学院新型コロナウイルス感染症緊急修学支援給付奨学金」を開設しました。国や地方公共団体による公的支援の受給証明書があるか、生計維持者の収入が2分の1以上減少した方が対象です。所属学科の授業料の金額を超えない範囲で、他の学内奨学金との併給も認められます。2021年1月まで毎月締切があります。

詳しくは本学ウェブサイトのトップページ「奨学金等経済的支援について」をご確認ください。

あとがき

コロナ禍でオンライン化が進められたのは授業だけではなく。キャリア支援課による面談や、サークル・学生団体の勧誘活動、学生相談・特別支援のサポート、図書館資料の貸し出し、受験生を対象としたオープンキャンパスなど多岐に渡ります。接触を避けて在学生や受験生のニーズに応えるにはどんな方法があるのか、教職員ともに試行錯誤した半年間でした。当初、ウェブ会議システムに関する研修は何度も行われ、動画作りにも四苦八苦していましたが、今では多くの教職員がシステムやソフトをそつなく使いこなしている様子です。しかしいまだに「こんな機能もある」「こうすれば簡単」という発見があります。当分、インプットは続きそうです。

サークル紹介 01

フォークダンス部

- 部員数: 8名
- 活動日: 水・土曜日
- 活動場所: 大学体育館、東北大学川内サブアリーナ2階

一番の魅力は手作りの民族衣装!

ブルガリア、ロシア、ルーマニア、ドイツ、イスラエルなどといった世界中の国々の民族舞踊を踊っています。様々な国の音楽を楽しめますし、担当している踊りをメンバーに教えることもあるので、わかりやすく伝えるためのスキルも身に付けられます。それに、衣装を自分たちで手作りするので、お裁縫が上手になります。踊りに合わせた様々な衣装が着られることもフォークダンス部の魅力のひとつ。メンバー全員、かわいい衣装のとりこです♡

コロナ禍でもWEB上で活動

メンバーはみんな、个性的でお互いのことを思いやる優しい人々です。イベントの度に協力して準備するので仲が深まり、笑顔が絶えません。学外の団体とも交流があり、このサークルに入っていなければ出会えなかった人たちばかりです。

コロナ禍で思うように練習ができず、新入部員の勧誘も難しかったですが、オンラインで新入生と懇談する機会を毎週作ったり、Twitterでフォークダンスについて紹介したりしていました。これからも多くの人と交流し、さらにダンス技術を向上させるのが目標です。



初めて作った衣装。
髪飾りは先輩からのプレゼント



それぞれが担当する
国の衣装を着て記念撮影



部長
伊藤 穂乃香さん
(現代ビジネス学部
現代ビジネス学科3年)

サークル紹介 02

漫画研究部

- 部員数: 26名
- 活動日: 不定期
- 活動場所: 学生センター4階 漫画研究部部室



「4コマおめ本」は
大学祭で配布



大学祭でのイラスト展示は
毎年恒例

4コマ漫画を手がけました!

6月から9月にかけて大学が発行していた「ミヤガク新報」に4コマ漫画を掲載していました。今回のように、漫画研究部の活動をもっと他の分野にも広げていくことができればいいと考えています。

基本的な活動としては、年数回の部内冊子の作成や、文化祭で販売する部誌・企画作品の作成、展示会への出品などです。手作業のものから業者さんに依頼するようなものまで、様々な製本作業を経験することができます。

「好き」でつながる仲間たち

活動はとても自由で、部で提示した作品を期限内に各々作成する方法を取っています。他のサークルとも掛け持ちしやすいのが魅力です。

私は「絵を描きたい!」と思って入部しましたが、漫画を描くということについては何もわかりませんでした。でも先輩からのアドバイスや同級生との共同制作を通してたくさん吸収し、目標や向上心を持つことができました。「絵を描くことが好き」「物語を作るのが好き」という気持ちが一番大切です。



部長
菅野 華菜子さん
(学芸学部人間文化学科3年)

MG archives

文学会大会 - 明治時代からある文化祭 -

宮城女学校では、明治時代から今日の文化祭のような催しが毎年秋に開催されてきました。中でも、リディア・A・リンゼー先生が演出されるシェイクスピア作品の英語劇はとても評判が良く、仙台の秋の名物とも言われていたようです。

この度資料室では、晩年のリンゼー先生から指導を受け、英語劇「真夏の夜の夢」に出演した西山育子さん（宮城学院女子専門学校英語科1950年卒）にお会いし、当時のお話を伺うことができました。西山さんのお話では、リンゼー先生のご指導は発音に大変厳しく、配役も全て先生が決めていたそうです。また、衣装やメイクアップは自分たちで行い、劇中の背景や小道具等はクラスメートの手作りだったそうです。貴重な写真もお借りすることが出来たのでいくつか紹介したいと思います。

（宮城学院資料室）

写真提供：西山育子さん



①劇中の「コマ」 ②写真右：西山育子さん
③リンゼー先生による台本

私の ENJOY HOME

STAY HOME な前期期間、学生たちはどのように過ごしていたのか、聞いてみました！

（「ミヤガク新報」より抜粋）

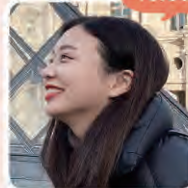
Voice 01



人間文化学科3年
横澤 萌佳さん

私の趣味は旅行です。現在、海外はもちろん国内ですら自由に移動することができません。そこで、この期間を次の旅行までの長い準備期間と切り替え、「韓国語」と「インドネシア語」を勉強することにしました。とはいえ座学だけでは飽きてしまうので、ときどき、現地の友人と電話やメッセージで会話を楽しんでいます。今までの自分を見直し、やるべきことを見つけ、コツコツと取り組んでいきたいと思っています。

Voice 02



英文学科3年
佐藤 有咲さん

私は10ヶ月間の予定でイギリスのリーズ大学で語学留学をしていましたが、パンデミックによる大学からの留学中止と帰国要請を受け、約4か月早い今年3月に帰国しました。マスク着用の習慣を持たないイギリス人が街では全員マスクをし、ロックダウンを目の当たりにし、パンデミックの恐ろしさを体感しました。帰国してしばらくは悔しさでいっぱいでしたが、同じ境遇の友達と連絡をとることで少しずつ前向きになりました。終息後を楽しみに、今できることを頑張っていきたいと思います！

Voice 03



食品栄養学科3年
百々 美潮さん

不要不急の外出が制限されているなかで、テレビ番組やSNSを賑わせていたのは、人にとって必要不可欠である「食」の話題だったように感じます。こういった媒体で紹介されるレシピには自分では思いつかない組み合わせや工夫が多く、たくさんの発想に触れる機会となりました。これは食に関する勉強をしている私にとって大きな学びでした。もともと食事をするのが好きで、それを通して誰かを笑顔にしたいという自分の夢の根本となる部分を再確認できたように思います。



@miyagaku_pr



@mgu.ac.jp



@miyagaku_pr